くまもと文学・歴史館報

くまもと文学・歴史館

平成28年1月28日

くまもと文学・歴史館開館

昭和六十年の開館以来、県民の皆様に親しまれてきた熊本近代文学館は、一年半の改修工事を終え、平成二十八年一月二十八日に「くまもと文学・歴史館」に生まれ変わりました。新しい施設では、小泉八雲や夏目漱石などの熊本ゆかりの作家の原稿や遺品等、これまでに収集した文学資料に加え、江戸時代の熊本藩の検地帳や絵図、人吉藩主相良家の古文書、明治時代の県関係公文書など熊本に伝わる貴重な〝本物〟の歴史史料を展示しています。郷土熊本が育んだ文学と歴史の「記憶」に触れ、興味がわけばすぐ図書館で調べることができる、「知の拠点」の実現を感じさせる施設が誕生しました。

開館に合わせ、当館の展示コンセプトをテーマにした、開館記念特別展が開催されました。

期　間：平成28年1月28日～3月14日

テーマ：「文学と歴史でたどる　くまもとの記憶」

熊本には、誇るべき宝があります。展示では熊本ゆかりの文学資料と歴史資料をひもとくことで、熊本のこれまでを振り返り、その文化の魅力を伝えることを目指します。

展示室１では、三つのコーナーで展示を行います。

①文字に記されたくまもとの記憶

熊本県立図書館に保存されてきた熊本に伝わる古文書を通じて、他地域にはない卓越した熊本の歴史の奥深さを体感することができます。

②絵図に残されたくまもとの記憶

熊本県立図書館には、熊本藩と明治期の白川県（のちに熊本県）から伝わる千八百枚近くの古絵図・古地図があります。過去の熊本の様子を思い起こすことができます。

③人物に彩られたくまもとの記憶

熊本から輩出した人物は、歴史にいろいろな足跡を残しています。人物に着目した熊本の記憶を展示・紹介します。

展示室１

展示室２では、「文学に見るくまもと」をテーマに、近世から現代までのくまもとの文学の流れを歴史を背景にパネルや収蔵資料で展示します。六時代に分かれたパネルのタイトルは、「熊本の近代への胎動」、「近代の夜明け」、「明治国家と教育」、「モダン都市熊本」、「戦後のスタート」「ひろがりゆくジャンルへ」です。

第１号
目　次

記念式典開催・開館記念講演会開催……2・3ページ
開館記念イベント……4ページ
くまもと文学・歴史館資料紹介……5・6ページ
出前講座・出前展示……7ページ
友の会事業……8ページ

展示室２

文学の理解を助けるパネルとして、三百項目以上の文学事象をエピソードと共に紹介する、年表「くまもと　文芸のあゆみ」や、熊本を県北、県央、県南、熊本市の四地域に分けて、各地の風土とゆかりの文学者を紹介するパネルを設置しています。

収蔵資料を画像で閲覧できるデジタルコレクションを常設。タッチパネルで自由に検索できます。内容は、収蔵作家三十二名の略歴と収蔵資料、古地図（一部の資料は拡大も可能）、熊本県近代文化功労者の紹介があります。また、図書館蔵書検索装置も隣に配置し、興味をもったものについてはすぐに調べることができます。

展示室２

データベース

展示室３・交流活動室では、砂取細川邸の庭園の展望を楽しめる交流空間となっています。熊本県近代文化功労者の紹介パネル、江津湖付近や近郊の文学施設を紹介するマップパネルを常設しています。映像視聴装置を常設し、旧熊本近代文学館の映像アーガイブをはじめ、江津湖の風景や展示会に関連する映像などが自由に見られます。

展示室３

記念式典開催

記念式典

熊本県立図書館三階大研修室で、開館当日の午前十時より記念式典が執り行われました。

村田信一副知事による挨拶のあと、来賓より松田三郎熊本県議会議長の挨拶があり、くまもと文学・歴史館の開館報告を井上智重館長が行いました。

記念式典

テープカット

会場を文学・歴史館に移し、テープカットが行われました。

テープカットは、村田副知事、松田県議会議長、内野幸喜教育警察常任委

テープカット

員会委員長、小堀富夫県文化協会名誉会長、田崎龍一県教育長、井上文学・歴史館長が参加しました。そこに、夏目漱石に扮した浜畑賢吉氏がサプライズゲストとして登場し、会場を沸かせました。

展示案内

テープカット終了後、井上館長の案内で開館特別記念展を見学しました。

ミニトークショー

浜畑賢吉氏と井上館長によるミニトークショーが展示室３で開催され、会場を盛り上げました。

ミニトークショー

展示案内

開館記念講演会開催

出久根達郎講演会

「熊本の心」県民大会との連携企画として行われました。集団就職で上京し、古本屋で働く傍ら作家となっていった自らの体験を語られ、約七百名の聴衆が熱心に話に聞き入りました。

演題：作家になるまで
　　私の中の「熊本の心」
日時：平成28年１月31日(日)
　　午後２時40分～３時40分
場所：熊本テルサ１階テルサホール

出久根達郎講演会

平川祐弘講演会

記念講演会として、東京大学名誉教授の平川祐弘氏による講演会が開催されました。比較文学研究の第一人者より小泉八雲、夏目漱石の書簡にまつわるたくさんのエピソードが語られました。英文資料を読みながら平川氏の翻訳を聞くという大学の講義のような質の高い講演内容でしたが、笑いを交えた楽しい語り口で、九州各県から集まったおよそ百五十名の参加者が一言も聞き逃すまいと聞き入っていました。

演題：漱石と八雲
日時：平成28年３月６日(日)
　　午後１時30分～午後３時30分
場所：熊本県立図書館３階大研修室

平川祐弘講演会

開館記念イベント

展示室３・交流活動室を利用した音楽会、ワークショップを開催しました。

●Ｖｉｅｎｔｏミニコンサート

平成28年１月30日㈯に、11時と14時の二回にわたって、Ｖｉｅｎｔｏによるミニコンサートを行いました。Ｖｉｅｎｔｏは阿蘇郡西原村を拠点に、自然風土や歴史文化などを題材にしたオリジナル曲を演奏するデュオです。吉川万里さんのケーナなどのアンデス民族楽器と竹口美紀さんのシンセサイザーで楽曲を奏でます。今回は旧砂取細川邸庭園と加勢川の清流をバックに、吉川さんのＭＣを交えながら、自然や人をテーマにした調べが満席の聴衆を魅了しました。当日の晴天も手伝って希望者が殺到。開演前から満席になるほどの大盛況でした。

Viento ミニコンサート

●ワークショップ「創作キットで俳句を作ろう」

平成28年２月21日㈰、13時30分から当館で作成した「俳句創作キット」を使った俳句ワークショップを行いました。講師の岩岡中正氏（熊本大学名誉教授）による句碑や動物、植物の解説を聞きながら、庭園や川沿いの道を言葉のスケッチをしながら吟行しました。

言葉スケッチをしながらの吟行

館に戻って、俳句の作成をし、句会、講師による講評を行いました。小学生、高校生、大学生、一般の十六名の参加者が二十分で三十五句を作成し、キットを使った初めての俳句づくりを楽しみました。

九点句

春風にふかれて回る風車（小学生）

石橋を叩かず渡る子猫かな（高校生）

六点句

卒業と未来を示すひこうき雲（一般）

創作キットを使っての俳句づくり

●ワークショップ「劇団きららのおはなしであそぼう」

平成28年２月27日㈯、14時から、おはなしの色んな楽しみ方を学ぶワークショップを行いました。講師は熊本で劇団を主宰する池田美樹氏です。テーマは「しゃべってずらしてふくらます　おはなしからひろがる親子コミュニケーション」です。参加者によるこれまでの絵本などのお話し体験の語り合いに始まり、普通のしりとりから形容詞付きしりとりなどのゲームを行い、気持ちをほぐしていきました。みんなで一文ずつの物語をつなげていく遊びをして、最後に、二人組になって、一つの台本を使って、自由な配役や脚色で読んでいく発表をしました。九名の参加者は声や言葉、想像力を使っていくことで、思いがけない物語との出会いを楽しんでいました。

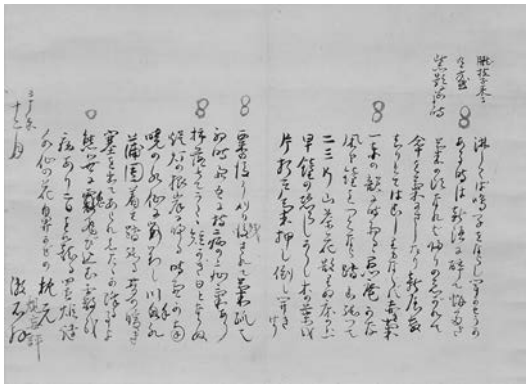
劇団きららのおはなしであそぼう

くまもと文学・歴史館 文学資料紹介

◆夏目漱石句稿　正岡子規宛

明治二十九年、今から百二十年前、夏目金之助（漱石）は第五高等学校の教師として熊本に降り立つ。新しい俳句を芽吹かせる「種蒔く人」の登場でもあった。

漱石は、正岡子規と学生時代から俳句を介して友情を深め、互いに高めあった。熊本からも漱石は俳句を作っては子規に送り、子規が添削をして返すのである。俳句は更に熊本の多くの仲間を結び、紫溟吟社が誕生した。漱石の俳句は熊本の記憶として今も息づく。



夏目漱石句稿　正岡子規宛〔明治30年（1897）12月〕

この句稿は、漱石三十歳の自筆。子規の朱書きがあり、子規がどのような俳句を佳しとしたのかが分かる。一句目は、「淋しくば鳴子をならし聞かせうか」。前書きに「朧枝子来る」とある。朧枝子とは、熊本出身の五高の講師などを勤めた徳永右馬七のこと。漱石の熊本における俳句仲間。徳永が愛児を亡くし、悲しんでいるのを慰めて作られたものという。漱石の温かい思いと共に鳴子の音が聞こえてくるようだ。

（木下優子・県立図書館参事）

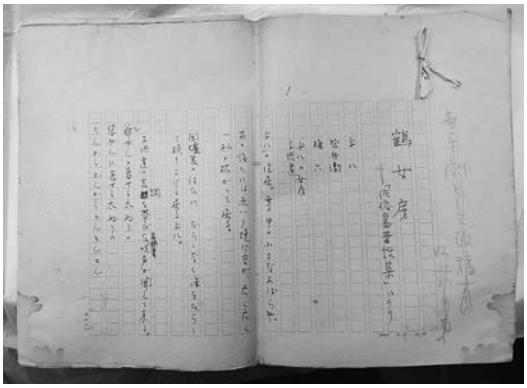
◆木下順二「鶴女房」

木下順二の不朽の名作「夕鶴」の原型となる「鶴女房」の原稿である。平成十六年に本人から寄贈を受けた資料の一つである。

「夕鶴」は民話「鶴の恩返し」をモチーフに、木下が戦後に書いた作品である。木下は「彦市ばなし」など、民話を題材にした作品を多く描いている。民話にある日本人の記憶を現代演劇に蘇らせたのが木下の民話劇である。鶴の化身つうが作る反物に金銭的価値を見出した人物を加え、登場人物の心理描写が創出されたことで「夕鶴」は現代劇となり、山本安英を主演に全国で千回を越える上演がなされた。戦中に書いた「鶴女房」を書き直したのが「夕鶴」である。「鶴女房」は作品集などには掲載されず、この原稿でしかその内容を知ることができない。

「鶴女房」と「夕鶴」の違いについて、つう役を山本安英に当て書きしたことにあったと木下は書いている。敗戦、そして、山本安英との出会いによる創作の変化を窺える貴重な資料である。

（鶴本市朗・県立図書館参事）



木下順二「鶴女房」〔昭和17年（1942年）〕

◆高群逸枝自筆原稿「平安鎌倉室町家族の研究」

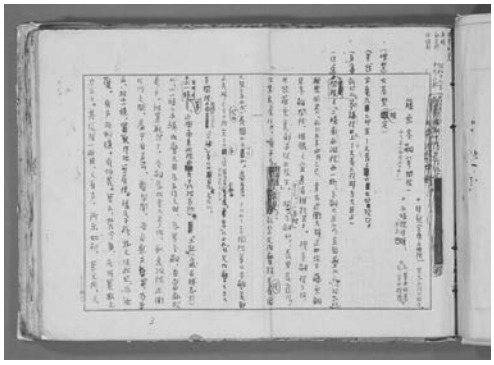
その分厚さに息をのむ。

高群逸枝「平安鎌倉室町家族の研究」は、彼女の死後、栗原弘氏の校訂で出版された同名本の元原稿である。総枚数は一八〇四枚、積み上げた高さは十八センチに及ぶ。原稿用紙には、数多の文献から抽出した各時代の家族や結婚の形態が、びっしり書き込まれている。原稿からは、研究にかける決意や一途な情熱が伝わってくる。逸枝が一心不乱にペンを走らせる、その音さえも聞こえてきそうだ。

詩人としてデビューした逸枝は、上京後、次々と注目される詩集を発表、平塚らいてうらと女性解放運動を展開する果敢な女性だった。一転、三十七歳からは東京の自宅に「面会お断り」の看板を掲げ女性史研究に没頭した。

女性の社会進出が厳しかった頃から、肥後の猛婦と称され時代を彩った熊本の女性たち。情熱と一途な思い、それを実行する努力と勇気。火の国の女の強さと魅力の記憶が、残された逸枝の原稿にも確かに刻まれている。

（村田眞理・県立図書館）



高群逸枝自筆原稿「平安鎌倉室町家族の研究」〔昭和19年～24年（1944～1949）〕

くまもと文学・歴史館 歴史資料紹介

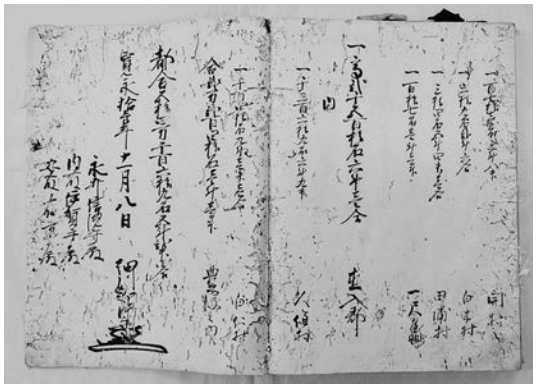
◆肥後国幷豊後之内郷帳

「思いの外広くて、（お前にも）見せてやりたい。」熊本藩の初代藩主・細川忠利は領地となった肥後国を巡検し、その感慨を江戸にいる息子光尚に書き送った。広大で豊かな国土は、米の石高（生産高）で五十四万石。幕府への公式な石高の登録帳簿が、この郷帳だ。

郷帳には、村ごとの石高が列記された末尾に、総石高五十四万千百六十九石五斗二升四合の数字と忠利の署名が記される。これで細川氏が治める熊本藩の公式石高が約五十四万石と定まり、幕末まで引き継がれた。

実はこの五十四万石、前の領主である加藤清正の検地帳に合わせた数字。細川家の家史『綿考輯録』によれば、実際の石高は七十四万石余。だが、石高が多ければ、それだけ幕府が課す軍役・普請役も増える。過重な負担は藩運営を破綻させると心配した家光の配慮もあり、公式石高は従来通りの五十四万石と定まった。この郷帳は、大国を治めるため、忠利と家光が下した政治的決断の「記憶」そのものである。

（深瀬はるか・県立図書館学芸員）



肥後国幷豊後之内郷帳〔寛永11年（1634）11月８日〕

◆疎開文書目録

昭和二十年七月一日深夜からの空襲により、熊本市千反畑にあった県庁等とともに県立図書館は焼失し、すべての蔵書が灰燼（かいじん）に帰した。いまや百万冊に手が届こうとしている蔵書も、戦後はゼロからの出発であった。

熊本に関する歴史資料の収集も県立図書館に課せられた使命だ。熊本藩から県が受け継いだ約四〇〇〇冊の検地帳や約三六〇枚の古絵図、そして西南戦争の記録などを含む県庁の行政文書は、〝くまもとの記憶〟をたどるために欠かせない核となっている。終戦後間もなく図書館に収められたこれらの資料は、いかに戦災を免れたのか。公文書の所在の報告を求めるＧＨＱの指令に基づき作成された「疎開文書目録」が明らかにしてくれる。

県庁文書は熊本市清水町麻生田の民家倉庫に疎開していた。偶然にも、旧藩の古文書類は、同市横手町の細川邸及び城内の熊本城址保存会に貸出されていた。関係者の努力と僥倖（ぎょうこう）とにより資料は伝えられたのである。

（丸山伸治・県立図書館学芸調査課長）

疎開文書目録〔昭和21年（１９４６）１月〕

◆熊本屋鋪割下絵図（写）

寛永九年（一六三二）五月二十四日、将軍徳川家光は加藤忠広の改易を決め、十月四日に細川忠利を後任に充てた。忠利は豊前小倉を発ち十二月九日辰上刻（午前七時）に熊本城に入城した。忠利の家臣達は十一月二十八日から熊本城下の町屋に仮宿し、忠利の入城後に屋敷が割り振られた。

この検討の際に使われた絵図が、熊本屋鋪割下絵図だ。熊本城を描いた絵図では現存最古のものである。原図は六畳ほどの規模のため、嘉永四年（一八五一）に熊本藩が四分の一に縮小した写しを展示するものである。

屋敷の区画には旧居住者の忠広の家臣と新入居予定者の忠利の家臣の名と、上・中で各屋敷の評価が格付けされている。

城下には白川や井芹川の付け替え痕とみられる池が残り、古町から南に抜ける「川尻道」（薩摩街道）が長六橋の架橋で迎町に新設されたことなど、忠広改易・忠利入城当時の熊本城とその城下の〝記憶〟を伝えている。

（青木勝士・県立図書館参事）

熊本屋鋪割下絵図（写）　一枚〔嘉永４年（1851）〕

出前講座・出前展示で10テーマ

くまもとの文学と史料をひもとく

熊本県立図書館・熊本近代文学館の所蔵資料に関連するテーマを、市町村自治体、博物館・図書館と共同で講演会や展示会を企画する「くまもとの文学と史料をひもとく」を八月―一月まで県内各地で開催しました。今年度は八代市、御船町、合志市、甲佐町、水俣市、熊本市で行いました。

出前展示

肥後の志士と吉田松陰

●御船町街なかギャラリー

9月29日(火)―1月11日(月・祝)

平成二十七年NHK大河ドラマ「花燃ゆ」に登場した宮部鼎蔵を切り口に、幕末の熊本藩に生きた志士達の列伝を紹介する企画展を、くまもと県民交流館パレアで6月6日(土)から7月26日(日)に開催しました。企画展の関連行事として井上智重館長による講座「異説・肥後維新史」を同会場で行いました。

講評を博したその展示を、宮部鼎蔵の出身である御船町でも出前展示として開催しました。御船町では、町主催で当館職員を講師に学習会を開催しました。

肥後の志士と吉田松陰（御船町街なかギャラリー）

山頭火資料パネル展

●織屋横レンガ倉庫

8月31日(月)―9月30日(水)

第十六回九月は日奈久で山頭火と第二十四回全国山頭火フォーラムin日奈久に協賛して、平成二十二年度近代文学館特別展「山頭火意外伝」で作成した山頭火に関する資料等のパネル二十一枚を展示しました。

出前講座

合志義塾が生んだ意外な人物

●合志市立西合志図書館

10月24日(土)

合志市立西合志図書館の図書館まつりに共催した講座を行いました。明治期から昭和初期にかけて菊池郡内の農業者の教育の場であった合志義塾と創設者工藤左一ら教育者、塾から輩出した淵上白陽らについて井上智重館長が話をしました。会場には町内外から八十人を集め、参加者の家族が合志義塾に通った話など、貴重な証言も飛びだしました。

江戸時代の甲佐と緑川

●甲佐町生涯学習センターホール

11月1日(日)

緑川に関する流域史のうち江戸時代に置かれた甲佐手永と現代の甲佐町との関連を町史執筆委員の花岡興史氏がわかりやすく講演しました。会場では当館が作成した「緑川の絵図」の実物大レプリカを展示しました。参加者は絵図上の地形や村の位置と現在の位置を比較し、当館職員の解説に耳を傾けていました。

この他、八代市立博物館未来の森ミュージアムでの八代連歌会、水俣市での淵上毛銭記念講演会を行い、いずれの会場でも好評を博しました。

江戸時代の甲佐と緑川（甲佐町生涯学習センターホール）

友の会事業

総会記念講演会

講師　田中和雄氏

日時：５月30日㈯　午後１時半
場所：熊本市現代美術館アートロフト
演題：「詩のトビラ　ひらけごま！」
「葉っぱのフレディ」「ポケット詩集」をはじめ、話題作を世に出してこられた編集者・田中和雄氏を講師に迎えた講演会。詩集編集にまつわるエピソードや、谷川俊太郎、茨木のり子ら、日本を代表する詩人たちとの交流についてのお話しを交えながら、詩の魅力について語りました。

◆第七回　武蔵忌俳句会
日時：５月17日㈰　午後１時
場所：島田美術館
武蔵忌（二天忌）にちなんだ俳句と、当季季題の句を投句。披講・講評・表彰式を行いました。
選者：岩岡中正氏（「阿蘇」主宰）
島田真祐氏（島田美術館館長）
野田遊三氏（「夜行」編集人）
星永文夫氏（「霏霏」主宰）

◆文章勉強会
日時：毎月第三日曜日　午後１時半～
場所：熊本県立図書館３階大研修室
会員同士で批評し合いながら文芸作品を創作しています。

◆歴史勉強会
日時：毎月第一木曜日　午後１時半～
場所：熊本県立図書館３階大研修室
職員の歴史担当学芸員を講師に、熊本県立図書館の古文書を読み解く講座。

◆３・11東日本大震災
朗読とメッセージの集い
場所：くまもと文学・歴史館 展示室３
日時：平成28年３月13日㈰
午後１時半～
震災から五年。追悼の思いを友の会員が作品にして伝えました。

◆「湧水」第23号発行
会員の作品を集めた文芸誌「湧水」を毎年発行します。

◆文学散歩
「熊本アイルランド協会との親睦遠足」
第１回春の文学散歩
日時：５月17日㈰　午前９時～
武蔵忌句会の参加を兼ねて、夏目漱石と宮本武蔵ゆかりの地を散策しました。
草枕交流館～霊岩洞～五百羅漢～島田美術館
第２回秋の文学散歩
日時：11月19日㈭　午前８時45分～
場所：菊池恵楓園～菊池城山公園～鞠智城ほか

菊池恵楓園にて

くまもと文学・歴史館のご案内

所在地
熊本市中央区出水２丁目５番１号
（熊本県立図書館併設）
電話（０９６）３８４－５０００㈹
開館時間
午前９時30分～午後５時15分
休館日
火曜日・毎月最終金曜日
年末年始・特別整理期間
入場料
無料
最寄りの交通機関
(1)市電＝「市立体育館前」下車・徒歩５分
(2)バス＝「水前寺公園・県立図書館入口」下車・徒歩５分

友の会会員募集中

熊本近代文学館友の会は、くまもと文学・歴史館友の会と名前を変え、文学・歴史に関心のある人々の自主的な活動を継続していきます。
くまもと文学・歴史館を核として、文学・歴史の愛好者の大きな輪を作りたいと願って組織するものです。
詳しくはくまもと文学・歴史館受付へお問い合せ下さい。

くまもと文学・歴史館報
第１号
平成28年３月31日発行
編集
発行　くまもと文学・歴史館
〒862-8612
熊本市中央区
出水2丁目5番1号
電話３８４－５０００㈹
(096)
FAX ３８５－４２１４
(096)